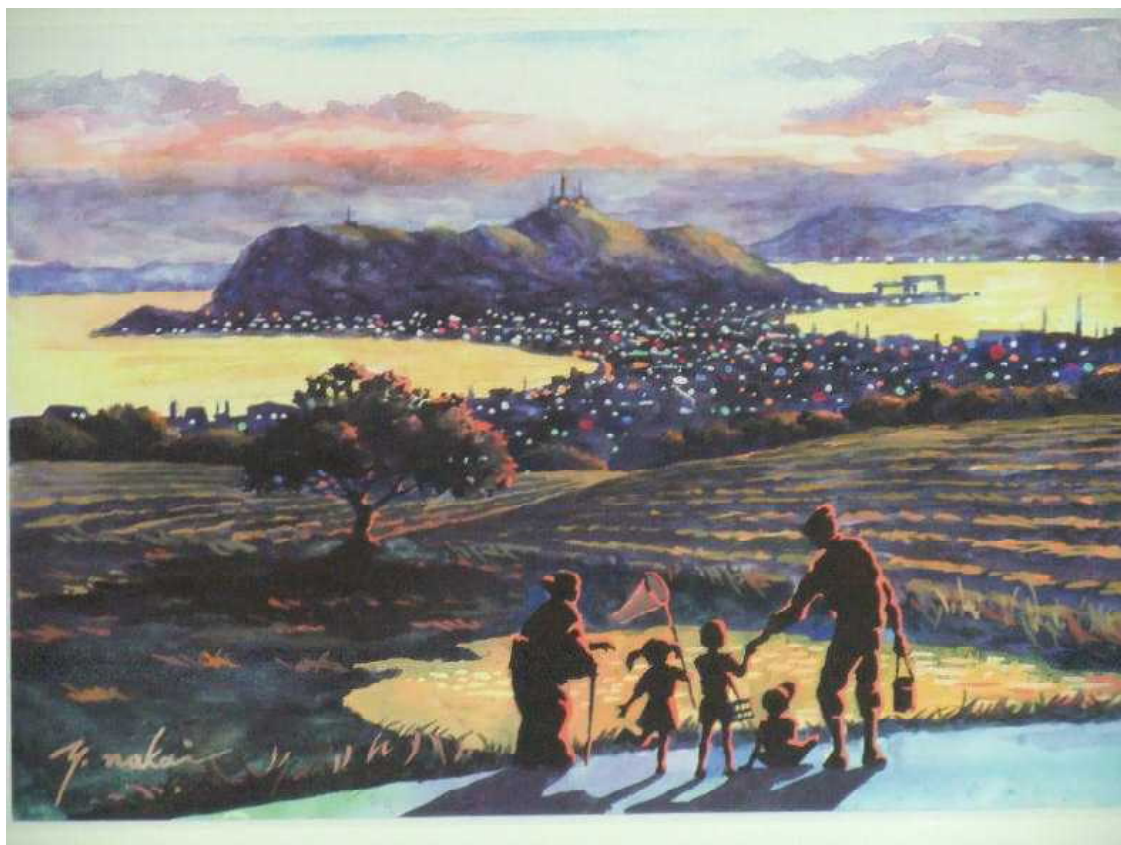


子どもを中心につながり合うために
～見守る，支える，共に歩む，発信する～



平成25年3月
函館市教育委員会

はじめに

平成20年4月に、国の動向や函館市の現状を踏まえ、本市の次代を担う子どもたち一人一人の個性を伸ばし、未来を創造する豊かな人間性を育むために、函館市義務教育基本計画が策定され、本年度で5年目を迎えているところであります。

各学校や地域等においては、本計画の基本理念を踏まえ、「生きることを見つめる」、「生きることを学ぶ」、「生きる力を身に付ける」教育活動が進められております。

特に、「対話」と「協働」を基調とし、子どもの実態や地域の現状を考慮した、学校、家庭、地域の連携・協力による特色ある取組が各地域で展開されているところであります。

市内各地域における学びは、子どもの実生活に結び付くものであり、学校をはじめ、地域人材や地域素材、各分野の専門機関等とのかかわりは、実感を伴った確かな学びへと発展していくものであります。

本資料では、市内各地域での取組を広く発信し、今後、「地域と一体となった教育活動」を一層推進することをねらいとして、実践例として整理し、例示しました。

各学校、地域等においては、本資料を参考に、それぞれの取組の意義や意味を再確認していただくとともに、新たな取組への一歩を踏み出し、学校、家庭、地域の連携による特色ある活動の一層の充実を図るようお願いいたします。

平成25年3月

函館市教育委員会

目 次

はじめに	・ ・ ・	1
目次	・ ・ ・	2
I 理論編		
1 家庭や地域社会，学校相互の連携	・ ・ ・	3
2 実践編について	・ ・ ・	4
II 実践編		
1 学校を見守る ～安全・安心な生活環境を目指して～	・ ・ ・	5
（1） 地域からの発信	・ ・ ・	6
（2） 地域で守る	・ ・ ・	8
2 学校を支える ～学習環境の充実を目指して～	・ ・ ・	9
（1） 地域素材の教材化	・ ・ ・	10
（2） 地域人材による協力	・ ・ ・	11
（3） 放課後の学習支援	・ ・ ・	12
（4） 学校周辺の美化活動	・ ・ ・	14
3 学校と共に歩む ～協働体制の確立を目指して～	・ ・ ・	15
（1） 防災安全の取組	・ ・ ・	16
（2） 学校関係者の協力	・ ・ ・	18
4 学校から発信する ～地域，保護者との共通理解を目指して～	・ ・ ・	21
（1） 校種間連携	・ ・ ・	22
（2） 地域行事等への参加	・ ・ ・	23
（3） 生徒指導等の教室の公開	・ ・ ・	24
参考・引用文献等	・ ・ ・	25

I 理論編

1 家庭や地域社会、学校相互の連携

(1) 家庭や地域社会と学校との連携

知識基盤社会と言われる現代社会において、子どもたちには、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、豊かな人間性等が必要である。

このような中、家庭や地域社会、学校においては、それぞれの役割を踏まえ、教育機能を発揮し、子どもたちの知・徳・体のバランスのある力を培うことが求められている。

教育基本法第13条では、家庭や地域社会と学校との連携について次のように規定されている。

学校、家庭及び地域社会その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

また、学習指導要領解説総則編においては、教育課程実施上の配慮事項として、次のように記載されている。

(12) 学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。

【小学校学習指導要領解説総則編より】

家庭や地域社会、学校の連携においては、三者の役割を再確認し、それぞれの教育的機能を生かした取組を見つめ、改善を図って行くことが大切である。

(2) 学校相互の連携

学校が、同校種間、異校種間など、相互に連携を図ることによって、子どもが一層幅広い経験を得たり、視野を広げたりすることにつなげることができる。

特に、幼稚園、小学校、中学校、高等学校がそれぞれの学校種間の連続性を意識しながら教育活動を行う「縦」の連携と、学校間の交流や情報交換など「横」の連携を行い、組織的、継続的な連携を図ることが大切である。

このことにより、子どもだけではなく、教職員が広い視野に立った教育活動を進めることが可能になり、子ども一人一人のよさを伸ばす教育活動の推進につなげることが期待できる。

(3) 本市における状況

本年度で策定されて5年目を迎える「函館市義務教育基本計画」の下で、家庭や地域の協力を得て、地域の特性を生かした確かな学びを育む多様な活動が行われている。

平成24年8月に本市が独自に実施した「平成23年度・平成24年度における各園・学校の特色ある教育活動調査」結果を整理すると次のような活動が継続的に、また、随時改善が図られながら、家庭、学校、地域の強い信頼関係の下で、進められていることが明らかになった。

〈具体的な支援〉 ○ 学力向上 ○ 交通安全 ○ 防災安全
〈体制整備〉 ○ 学校評議員制度の確立
〈啓発・啓蒙〉 ○ 情報発信

など

以上の活動は、家庭、学校、地域の実態や様々な条件を考慮された上で行われている「その地域ならではの」活動ではあるが、そのねらいや内容、手立ては、他地域の活動の改善・充実を図る上で、大きなヒントになるものであると考える。

2 実践編について

(1) 見守る・支える・共に歩む・発信する

前述の平成24年8月の調査結果から、特色ある活動を整理するとともに、次の4つの視点を設定し、関係する園・学校から情報収集を行い、代表的な例として掲載した。

視点1：学校を見守る（安全・安心な生活環境を目指して）

視点2：学校を支える（学習環境の充実を目指して）

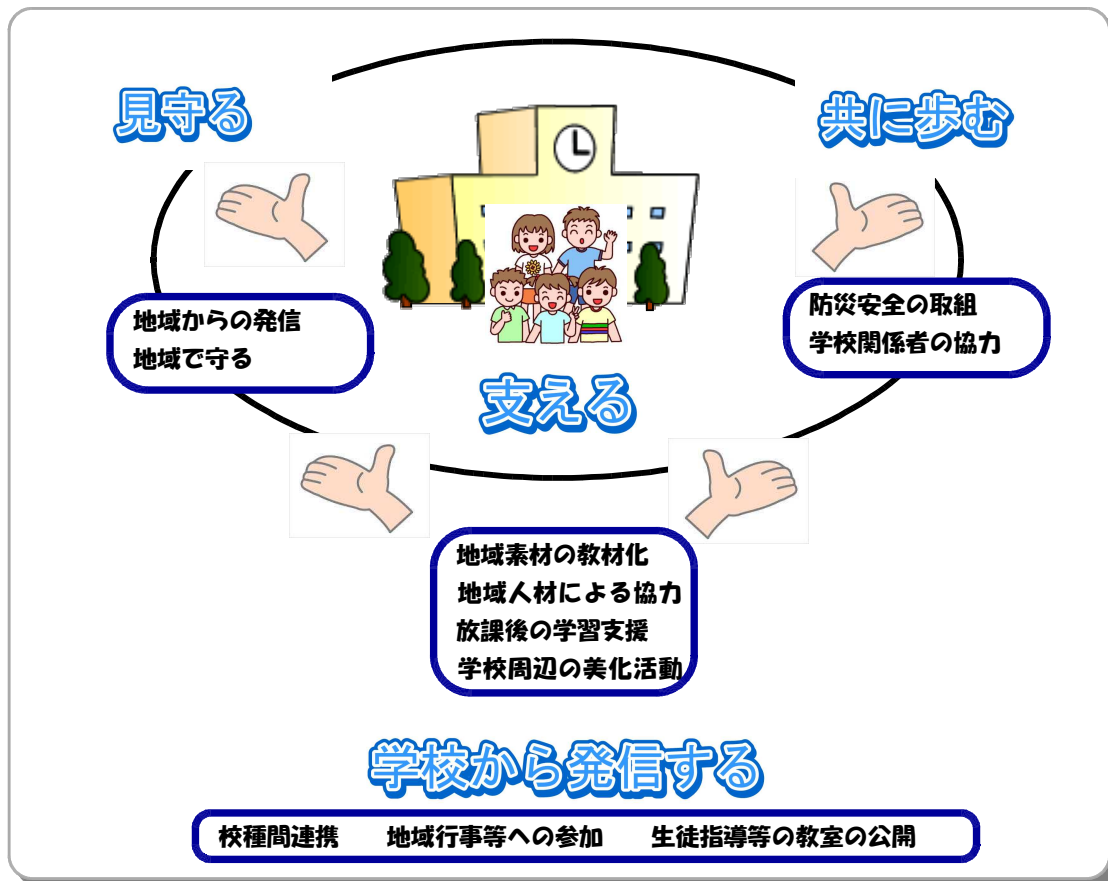
視点3：学校と共に歩む（協働体制の確立を目指して）

視点4：学校から発信する（地域、保護者との共通理解を目指して）

(2) 4つの視点から見つめる特色ある教育活動

子どもの確かな学びを育む家庭，学校，地域の活動を次のようにイメージする。

なお，4つの視点の活動は，生きる力を育む上において，それぞれが活動の中で大きな役割を担っていると考ええる。



子どもや学校を中心とする各視点に関する活動は，それぞれのねらいを達成する活動であるとともに，全てが確かな学びを支える重要な事項として，関連し共通の目標へ向けた「豊かなつながり」をもつものである。

より具体的な家庭や地域社会，学校の実態をイメージすることができるよう，実践例を掲載するに当たり，情報提供いただいた園・学校名を記載している。

現在の自校，地域の活動を見つめる際，また，今後の活動を検討する際に，それぞれの実践例を参照し，活用願いたい。

Ⅱ 実践編

1 学校を見守る ～安全・安心な生活環境を目指して～

本章では，地域，家庭が中心となり，健全育成，交通安全など，子どもの生命や安全を守る特色ある活動について掲載しております。

町内会，PTA，学校など，様々な団体による情報発信，啓発活動，規範意識や危機意識の醸成など，子どもや学校を見守る活動についてご参照願います。

各学校においては，これらを参考に，

- ・安全マップの作成
- ・啓発ポスターの作成
- ・子どもの見守る活動

などの取組の充実をお願いいたします。

〈本章において資料提供していただいた園・学校〉

※ 掲載順

- ◇ 函館市立柏野小学校
- ◇ 函館市立高盛小学校
- ◇ 函館市立本通中学校
- ◇ 函館市立赤川中学校
- ◇ 函館市立椴法華中学校
- ◇ 函館市立日吉が丘小学校
- ◇ 函館市立湯川小学校

(1) 地域からの発信

■ 実践例 1

安全マップの作成(1)

1 目的

安全教育の一環として、子どもを安全マップ作成にかかわらせることで、危険回避能力を育てる。学校と地域が協力して、校区内の実態を理解し、より緊密に連携できるようにする。

2 実施時期

10月中旬

3 活動の概要

高学年の子どもたちが、自分の住んでいる町会ごとに集まり、グループごとに自分が知っている危険箇所を交流した。交流時には、今年度のテーマ「遊ぶのに危険な場所・迷惑がかかる場所・安全に遊べる場所」を重点的に話し合いを進めた。

グループのリーダーが話し合いの結果を発表し、大型地図に色シールを貼っていき、参加協力して下さった地域の方から、補足説明や日ごろ気になっていることなどを話していただいた。



4 成果(○)と今後に向けて(●)

○ 地域・教師・子どもの情報の交流から、危険箇所や実態などの共通理解が得られ、安全マップを更新することができた。また、学校の取組や考え方を地域に理解していただくことができた。

● 安全マップに情報を書き込む中で、情報が混在してきたため、内容を厳選していく。

※ 本事例は柏野小学校から情報提供いただき、掲載しました。

■ 実践例 2

安全マップの作成(2)

1 目的

子どもたちや地域の安全を守るため、「イエローマップ」と称した安全マップで、交通安全上、生徒指導上、不審者の関連で危険箇所を確認し、「自分の身は自分で守る」ことの意識を高める。

2 活用状況

「イエローマップ制作」→数年前に光成中学校と連携し、小中合同校外生活委員会において作成。現在活用中。

3 活動の概要

イエローマップの活用

子どもたちの安全意識をさらに高めるために、登校時の通学路巡視、110番通報訓練、不審者侵入時の対応訓練等も併せて行っている。

PTAの活動

昨年度、PTA広報部が、災害に備えた内容も含めた「高盛小お助けマップ」を制作した。「外で遊んでいる時、困った時に覚えていけると便利」という視点から、公衆電話設置場所・SOSステーション・110番の家などをマップ内に明記。また、非常用品リスト、《SURVIVAL CARD》も作成し、広く活用している。



4 成果(○)と今後に向けて(●)

○ 地域全体で安全に努める意識づくりが進み、活用も広がった。

● 今後も、状況を確認しながら、見直し・改善を進めていく。

※ 本事例は高盛小学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 3

啓発ポスターの作成と校区内商店への掲示

- 1 目的
長期休業中における健全な生徒の育成と、飲酒・喫煙の未然防止を図る。
- 2 実施時期
春休み期間
- 3 活動の概要

PTA生活部によるポスター作成

 - ・PTA生活部の年度末反省の時期に、喫煙と飲酒防止についてのポスターを作成する。

掲示

 - ・事前に掲示の依頼を行い、許可を得ることができた商店へ出向き、ポスターを貼る。
- 4 成果(○)と今後に向けて(●)
 - 青少年健全育成への働きかけについて、学校に寄せられる声が増えた。
 - 学校と地域の商店との交流が活発化し、連携しながら問題行動の未然防止に取り組むことができた。
 - 趣旨を理解していただき、さらに広範囲へと活動を広げていきたい。

※ 本事例は本通中学校から情報提供いただき、掲載しました。



■ 実践例 4

各町会、児童館との連携

- 1 目的
各町会発行の広報誌、児童館発行の児童館便りと、学校からの学校通信、生徒指導通信との双方向の情報交換により、学校と地域の連携を強化する。
- 2 実施時期
各月1回
- 3 活動の概要

- ・学校が、各町会に広報誌に学校行事等の紹介についての掲載を依頼。
 - ・各町会が、学校に町会行事や地域ボランティアの方等の様子についての掲載を依頼。

学 校

地域の学校として

- ・学校が、児童館指導員から、子どもたちの児童館での様子を情報収集。
 - ・学校から児童館指導員に、子どもたちの様子を情報提供。

各 町 会

・町内会行事との連携。
・子どもたちの状況について情報交換。

児 童 館
- 4 成果(○)と今後に向けて(●)
 - 子どもを地域で育てることについての共通理解が図られた。
 - 地域の人材を有効に活用できる「地域人材バンク」の整備をしていく。

※ 本事例は赤川中学校の実践例に基づき、掲載しました。

コラム: コミュニティバス運営への協力

「陣川あさひ町会バス」(通称Jバス)は、平成24年4月に運行が開始され、地域住民が「オーナー兼利用客」という「全国的にも珍しい取組」(道運輸局)のコミュニティバスである。

本校区は、下校に際し、「Jバス」を利用する生徒が多く、運営者である町会との連携は不可欠である。

中学校・町会合同のバス委員会

季節、学校行事、部活動等を考慮し、運行ルートや時間帯の見直しなどを助言する。

バス通学を見守る体制づくり

- ・学校職員も参加し、地域住民と協力して行う。
- ・安全を見守る活動。
- ・挨拶等の礼儀と利用マナー。



※ 本事例は赤川中学校の実践例に基づき、掲載しました。

(2) 地域で守る

■ 実践例 1

朝・放課後・長期休業中の見守り活動について

1 目的

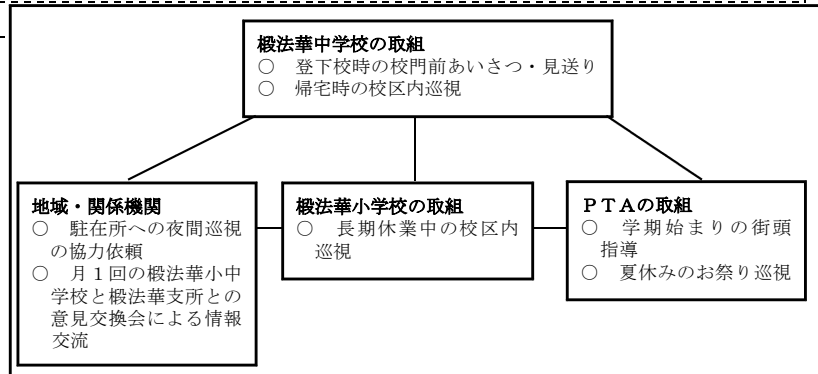
地域と連携した取組を通して、地域の子どもの安全を守る。

2 実施時期

朝の登校時間、放課後の下校時間、夏休み中の昼間、帰宅時間など。

3 活動の概要

学校・地域・PTA・関係機関との連携を取り、子どもの安全を図る活動に取り組んでいる。中学校としては、毎朝の活動、放課後の見送りをを行っている。また、職員が協力して、帰宅する際に地域を見てから帰るなど、時間を工夫して取り組んでいる。
(右の図は、連携を表している図である。)



4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 帰宅時、夏休み中の校区内巡視は、子どもの危険行動の抑止につながっていると感じる。
- 通常勤務では、時間の都合うまくできない。設定時間や放課後もPTAや地域関係機関への協力を要請していく。

※ 本事例は楯法華中学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 2

発信・受信と子どもの安全を守る活動

1 目的

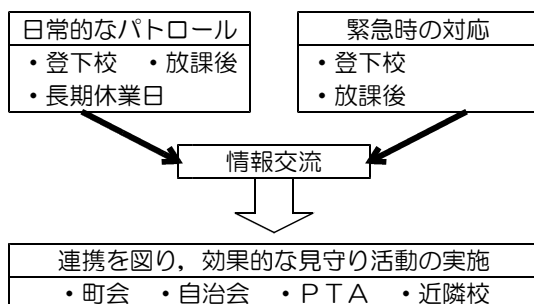
地域の力を結集させ、子どもの命を守る活動を行う。

2 実施時期

総会(6月) 合同パトロール(7月)

3 活動の概要

◇ 合い言葉…「できる時間、できる場所で」



4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 地域の協力を得ることにより、日常적인見守り活動の実施に結び付いている。
- 緊急時の協力体制を整備していく。

※ 本事例は日吉が丘小学校から情報提供いただき、掲載しました。

■ 実践例 3

学校を見守る活動について

1 目的

子ども及び地域の安全確保と安全意識の向上を目指す。

2 実施時期

塗り絵コンテスト(7月)
緑園通り巡視(7月)

3 活動の概要

PTAが中心となり、地域、教職員、保護者、関係者が連携して緑園通りを巡視している。また、安全意識の啓発活動として「少年少女セーブサポート運動ポスター・塗り絵コンテスト」を実施している。



4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 学校・家庭・地域の共通理解を図ることができた。
- コンテストを継続するための経費等を検討していく。

※ 本事例は湯川小学校から情報提供いただき、掲載しました。

Ⅱ 実践編

2 学校を支える ～学習環境の充実を目指して～

本章では、地域社会や家庭の協力を得た教育活動を中心に掲載しております。

地域素材や地域人材の活用による授業実践や、基礎的・基本的な事項の習得を目指した学習支援等、豊かな心を育むボランティア活動など、学校を支える活動についてご参照願います。

各学校においては、これらを参考に、

- ・地域素材の教材化
- ・地域人材による協力
- ・放課後等の学習支援
- ・美化活動の実施

などの取組の充実をお願いいたします。

〈本章において資料提供していただいた園・学校〉

※ 掲載順

- ◇ 函館市立椴法華小学校
- ◇ 函館市立磨光小学校
- ◇ 函館市立戸井幼稚園
- ◇ 函館市立港中学校
- ◇ 函館市立中部小学校
- ◇ 市立函館高等学校
- ◇ アフタースクール
(函館市立八幡小学校)
(函館市立駒場小学校)
- ◇ 函館市立桔梗小学校
- ◇ 函館市立臼尻小学校
- ◇ 函館市立高丘小学校
- ◇ 函館市立桔梗中学校
- ◇ 函館市立石崎小学校
- ◇ 函館市立大川中学校

(1) 地域素材の教材化

■ 実践例 1

お魚体験(地域を知る)授業

- 目的**
地域産業の一つである「漁業」にスポットを当て、地域で捕れる魚に興味をもち、また、漁業に携わる人のお話を聞くことで地域の産業に触れ、自分たちの地域の産業や歴史をさらに詳しく調べることにつなげていく。
- 実施時期**
9月
- 活動の概要**
活動の流れ
 - ① 講師の方のお話。
 - ② 魚をさばいてもらう。
 - ③ 実際に子どもたちが魚をさばく。
 - ④ さばいた魚を食べる。
 - ⑤ 子どもたちからの感想や質問。

地域

協力・連携

学校

子どもたちのために何かをしてあげたい!

地域素材や地域人材を生かした授業をしたい!



☆子どもたちの感想☆

- ・魚が初めは触れなかったけど、授業の終わりには、触れるようになって嬉しかった。
- ・イカの皮をはがすところが、難しかった。
- ・将来、漁師になりたいと思った。

想いや願いの一致



- 成果(○)と今後に向けて(●)**
 - 身近な方の話と目の前の海でとれた魚を教材にすることで、自分たちの生活と海との関係の深さに気付くとともに、魚をさばく体験から身近な地域の食材への関心も高めることができた。
 - 仕事としての漁業に対する関心を高めるようにするなど、キャリア教育の一つとしての明確な位置付けをしていく。

※ 本事例は般法華小学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 2

地域素材 コンプの教材化

- 目的**
地域の主幹産業である昆布の生産について教材化し、地域への愛着と自己の生き方を考える。
- 実施時期**
3年生：5～10月 4年生：1・2学期
5年生：6～12月 6年生：5～3月
- 活動の概要**
5年生 [南茅部の特産品の商品開発]
大阪の昆布問屋との交流
6年生 [いい町南茅部]
縄文文化交流センターへの見学
3年生 [南茅部の海]
漁組の協力
4年生 [特産品のコンプ]
地元の昆布加工センターとの交流
全学年 **前浜学習**

- 成果(○)と今後に向けて(●)**
 - 身近な存在である昆布だが、新たな発見が多く、意欲的な学習とすることができた。
 - 一つだけではなく、複数の対象を調べ、広がりをもたせていく。

※ 本事例は磨光小学校から情報提供をいただき、掲載しました。

■ 実践例 3

自然や地域とのかかわり

- 目的**
豊かな体験を通し、一人一人がいきいきと生活する姿を目指す。
- 実施時期**
一年を通して
- 活動の概要**
春【春探し・草花で遊ぶ】
春探し探検隊
色水遊び
お店屋さんごっこ
夏【3園合同滝体験活動】
図鑑やテレビ視聴したもの、実際に見て触れてみる
秋【赤とんぼを捕って遊ぶ】
トンボの卵の発見
弱っていくとんぼへの気付き
冬【～氷探し・霜柱の発見】
氷の観察
踏んだときの音
霜柱の発見

- 成果(○)と今後に向けて(●)**
 - 戸井の自然を積極的に遊びに取り入れたことで、豊かな言葉のやりとりで気持ちを表現する経験を重ねることができた。
 - 季節や時期に配慮し、実施していく。

※ 本事例は戸井幼稚園から情報提供いただき、掲載しました。

(2) 地域人材による協力

■ 実践例 1

全校道徳：「命の大切さを学ぶ教室」

1 目的

家族を交通事故で失った交通死亡事故遺族の方の講話を聞くことにより、残された遺族の心情にふれ、改めて「命」の大切さに向き合う。

2 実施時期

9月

3 活動の概要

(1) 講師紹介：宗山 幸夫氏（北斗市在住）

(2) 講話

講師は、息子2人の明るく活発だった姿について、スライドを使用しながら紹介するとともに、交通事故の概要とその時の親の気持ちについて講話を行った。

子どもたちは話に引き込まれていき、自分の家族に置き換えたり、親の心情を考えたりしながら、話を聞いていた。

特に、講話の中の「いつ何が起こるか分からないが、親にとっては子どもは宝である。とにかく、今を一生懸命に生きてほしい」という講師の言葉は、子どもたちの心に響いた。

代表生徒が涙ながらに講師への謝辞を述べるなど、命の大切さを実感する姿が見られた。

(3) 学級指導

各学級で「講話」に関連したまとめの授業を行い、自分たちの思いを作文に表した。



講師に謝辞を述べる生徒代表

4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 「命の大切さ」について考える大きな機会となった。
- 自分の命だけではなく、他者の命の大切さについて実感する姿が見られた。
- 今後も、子どもたちの心に染み渡る講話ができる外部講師の発掘をしていく。

※ 本事例は港中学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 2

水産業関係者を招いた授業実践

1 目的

学校と地域社会が連携して、地域の水産業関係者を活用した授業実践を行うことを通して、子どもが地域の一次産業や地元の食材に興味・関心をもち、楽しく学習に取り組む、ふるさと函館のよさを見いだす機会とする。

2 実施時期

12月

3 活動の概要

(1) 概要

地元の食材であるコンブの流通について、水産業関係者とののかかわりを本時に限らず、単元の始めから段階的に行うことを通して、水産業を身近に感じ、流通の仕組みや働く人の思いや願い、工夫等を実感を伴ってとらえるようにする。

(2) ポイント

- 単元を通じた継続的な人とののかかわり

写真、手紙、インタビュー紹介 → VTR → 直接的なのかかわり

4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 日常的に実感が少ない社会的事象の理解のために継続的なのかかわりは有効であった。
- 単元や本時の流れについてゲストティーチャーとの共通理解を図ったことにより、具体的で焦点化した説明を得ることができた。
- 働くことの楽しさや喜びなどを取り上げ、社会貢献への意識を培っていく。

※ 本事例は中部小学校から情報提供いただき、掲載しました。

■ 実践例 3

函館学の実践について

1 目的

函館の伝統と文化を学び、函館についての理解を深め、地域で学ぶ姿勢を育成する。

2 実施時期

野外劇(7月) 放課後講座(10月～1月)
元町巡検(10月) 函館学試験(2月)

3 活動の概要

(1) 野外劇の観賞

- ・ 函館の歴史について事前学習。
- ・ 野外劇事務局の事前説明会。
- ・ 野外劇観賞、感想文提出。

(2) 元町巡検

- ・ 政治経済や自然分野の事前学習。
- ・ コース別事前学習会、元町巡検。
- ・ 事後講演会 感想文提出。

(3) 市民公開放課後講座受講

- ・ 市役所出前講座を希望制で受講。

(4) はこだて検定の学習会、筆記試験

※ 上記の4点の合格をもって、教科「函館学」1単位を認定とする。

4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 函館の文化、歴史の深さを知り、誇りを感じる子どもたちの姿が見られた。

● 放課後講座のもち方、検定テキストの活用方法、講師謝礼金などの工夫、改善を図る。

※ 本事例は市立函館高等学校から情報提供いただき、掲載しました。

(3) 放課後の学習支援

■ 実践例 1

函館市学力向上支援事業 アフタースクール ～八幡小学校・駒場小学校における取組～

1 目的

函館市内の小学校に放課後・長期休業中に学習の支援をするアフタースクールサポーターを派遣し、子どもの宿題や家庭学習の支援を行い、学習習慣の定着による学力向上を図る。

2 実施時期

八幡小学校	駒場小学校
- 毎週月曜日、水曜日、木曜日 14時30分～16時30分 ※ 冬季は16時まで。	- 毎週月曜日、水曜日、金曜日 14時40分～16時30分 (14時40分から15時20分、15時30分から16時30分と時間、学年を分けて設定している。) ※ 冬季は16時まで。

3 活動の概要

好きなときに
学校の勉強が終わった後、アフタースクールを行う教室に行って、宿題や家庭学習を行います。

好きなだけ
誰でも好きな日に利用できます。(学校毎に異なります。)
途中から参加したり、途中で帰るのも自由です。

やりたい勉強を
勉強道具は自分で用意します。自分のやろうと思った勉強をすることが大切なのです。

やってみよう
函館市の事業なので無料で参加できます。

自分の力で
自分の力で勉強を進めます。でも、分からないところがあったら教えてくれる先生(サポーター)がいます。



4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 八幡小学校では常時80～100人、駒場小学校では常時40～80人が利用している。
- 八幡小学校では、保護者や学校評議員にも公開している。
- 駒場小学校では、口コミで利用者が増えているとともに、子どもたちに宿題を終えてから自宅に帰るといった安心感を与えることができている。
- 今後も、たくさん子どもたちが参加し、適宜支援を行うことができるよう環境整備に努めていきたい。

八幡小学校の子どもたちの声

- ・ 友達がいるから勉強が楽しい。
- ・ 家でやらなくてもすむから、楽になった。
- ・ 分からないところをすぐに教えてもらえるからどんどん勉強の力がついてきました。
- ・ すごく勉強がわかりやすい。
- ・ 静かで勉強に集中できると思いました。

駒場小学校の子どもたちの声

- ・ 先生がいてたすかります。
- ・ 分からないことがわかった。
- ・ 勉強が進んでいい。
- ・ 家に帰っていっぱい遊べるからいいと思います。
- ・ 家で勉強するよりアフタースクールで勉強した方がやりやすい。

■ 実践例 2

寺子屋ききょう

1 目的

子どもたちが学ぶ楽しさや考える面白さに気付けるように学習を支援し、学習習慣の定着を図る。

2 実施時期及び実施主体

毎週水曜日、14時30分～16時30分 実施主体は地域ボランティア。

3 活動の概要

地域 子ども一人一人を見つめた、きめ細かな支援を目指しています。

教職経験をもつ地域の方による運営

○スタッフ会議

子どもの様子から…

理解の様子 学習の進度

支援方法 家庭・学校との連携

○寺子屋ききょう

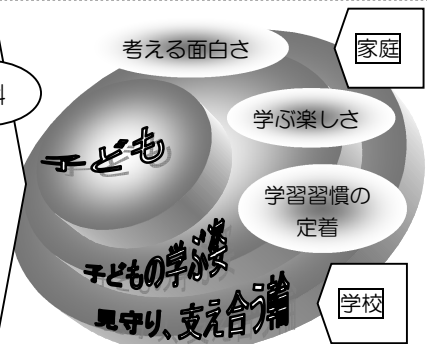
自分で

学習内容を考え、道具を準備してください。

分からないことは

勉強のお手伝いをする人に聞いてください。

無料



4 成果（○）と今後に向けて（●）

- 異学年と学習することで、お互いに支え合ったり、学習意欲を高め合ったりすることができている。
- たくさん子どもたちが、さらに「寺子屋ききょう」を利用しやすくなるよう活動を工夫していく。

※ 本事例は桔梗小学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 3

うすじり寺子屋

1 目的

自学の習慣化を図ることで学力向上の支えとなる学習意欲の向上を目指す。

2 実施時期及び実施主体

毎週水曜日、14時25分～15時5分、長期休業期間後半の4～6日間。実施主体は地域ボランティア。

3 活動の概要

地域 ○うすじり寺子屋

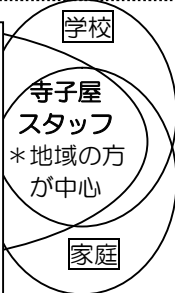
国語・算数の 自分で学習 苦手を克服し の準備をしましょう。 しましょう。

自学自習の力

学習意欲の向上 基礎学力の定着 学習過程への活用

学力向上

学習のサポート



4 成果（○）と今後に向けて（●）

- 子どもたちの学習意欲が向上した。
- 自学自習の力が付き、学習指導が充実した。
- ボランティア指導員の確保と体制を充実する。

※ 本事例は白尻小学校から情報提供いただき、掲載しました。

■ 実践例 4

放課後子ども教室

1 目的

子どもたちが放課後に安心して活動できる居場所を作る。

2 実施時期及び実施主体

5月から3月の毎週水曜日、14時～17時。実施主体は教育委員会生涯学習部。

3 活動の概要

学校運営面のサポート
家庭指導員

地域 ○放課後子ども教室

カルタ 子ども達の 安心・安全 な活動の場

トランプ

雪遊び

子どもとともに活動するボランティア指導員

4 成果（○）と今後に向けて（●）

- 地域の方や異学年との交流が盛んになった。
- 保護者に安心感を与えている。
- ボランティア指導員の確保と形態を工夫する。

※ 本事例は高丘小学校から情報提供いただき、掲載しました。

(4) 学校周辺の美化活動

■ 実践例 1

はこだて花かいどうボランティア

1 目的

活動を通して、子どもが自ら地域の環境について考え、主体的に美化活動に参加する態度を育てる。

2 実施時期

植栽活動：6月 撤去作業：11月

3 活動の概要

本校は平成16年から毎年行われている「函館花いっぱい道づくりの会」による植栽ボランティア活動に、生徒会を主体として毎年参加している。函館新道約600mの区間にある植樹帯にマリーゴールドやペゴニアなど約10,000株を植え、本格的に冬になる前の11月に植えた株の撤去をする。撤去した株はゴミとして燃やさず、たい肥として処理し、二酸化炭素排出の削減にも取り組んでいる。



4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 地域の身近な美化活動に参加するとともに、環境問題について生徒が主体的に取り組む意識が高まった。
- 総合的な学習の時間と関連付けながら、全校的で協働的な教育活動につなげていく。

※ 本事例は桔梗中学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 2

校区クリーン作戦(1)

1 目的

地域をきれいにするため、小学校・中学校・地域の方々が連携して、清掃活動を実践する。

2 実施時期

7月夏季休業前

3 活動の概要

銭亀沢地区の小中学校三校と町内会やPTAが合同でクリーン作戦を実施。それぞれが校区七地区に分かれ、「地域を綺麗にする清掃活動」に取り組んだ。

4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 地域をみんなできれいにし、大切にしようという意識が、体験を通して着実に高まってきた。
- 地域全体の綿密な打合せを行っていく。

※ 本事例は石崎小学校から情報提供いただき、掲載しました。

■ 実践例 3

校区クリーン作戦(2)

1 目的

地域の清掃活動を通して、町を大切にしようという意識を高める。

2 実施時期

7月夏季休業前

3 活動の概要

全校の子どもたちを住んでいる地域(各町会)ごとに縦割りの班編成をし、地域の住民の方々と一緒に清掃活動を行った。

4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 函館盲学校の生徒も参加し、異校種との連携・交流を実践することができた。
- 年間複数回実施していく。

※ 本事例は大川中学校から情報提供いただき、掲載しました。

Ⅱ 実践編

3 学校と共に歩む ～協働体制の確立を目指して～

本章では，地域社会と学校，学校間が連携して，防災教育や，学校の教育活動の充実を図るなど，特色ある活動について掲載しております。

専門的な知識のある人材や，同校種，異校種の連携など，複数の機関や人材が子どもの成長のために共に歩みを進める活動をご参照願います。

各学校においては，これらを参考に，

- ・避難訓練の実施
- ・開かれた学校づくりの推進

などの取組の充実をお願いいたします。

〈本章において資料提供していただいた園・学校〉

※ 掲載順

- ◇ 函館市立西中学校
- ◇ 函館市立八幡小学校
- ◇ 函館市立えさん小学校
- ◇ 函館市立千代ヶ岱小学校
- ◇ 函館市立桐花中学校
- ◇ 函館市立的場中学校
- ◇ 函館市立赤川小学校

(1) 防災安全の取組

■ 実践例 1

避難訓練①～地域全体で取り組む避難訓練の実施～

1. 目的

東日本大震災を通じて得た教訓である「普段の訓練が大切」「学校だけでは子どもの命を守れない」「自然に想定などない」ことを踏まえ、地域と一体となった訓練を行い、子どもたちが自分の命は自分で守る、助けられるより助ける人になることを実感できるようにする。

2. 実施時期

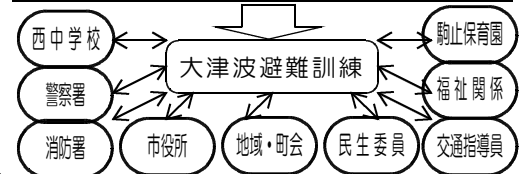
11月

3. 活動の概要

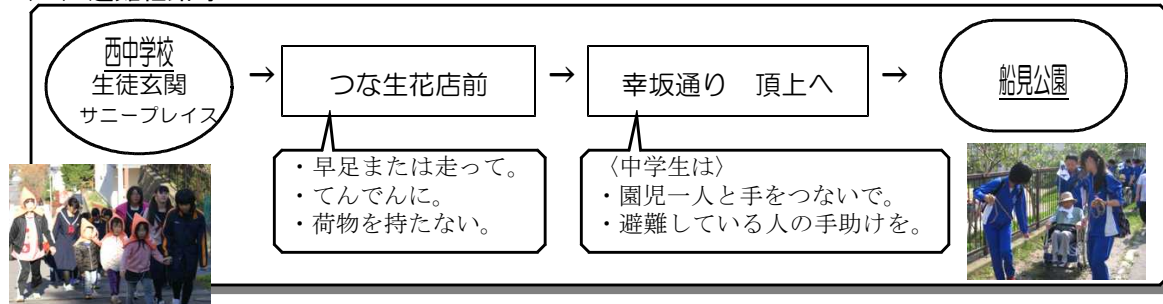
(1) 参加者等

- 西中学校、駒止保育園、町会関係者や地域住民約300人。
- 学校と地域のパイプ役を函館市まちづくりセンターが担った。

大地震（M8以上）大津波（20m以上）



(2) 避難経路等



(3) 避難所において

① 全教職員で三原則…お互いの声かけ。

健康観察	人員確認	不安解消
・体調 ・けが ・持病 ・手当 ※ けが…医療班へ 救急処置は110番	・整列 ・点呼 → 教頭へ ・再捜索隊編成	・声かけ ・パニック 大丈夫だよ。 家族も避難しているよ。

② 迎えに来る保護者に対して

- ・〇〇先生と〇〇先生、入口で、迎えの保護者への対応をお願いします。
- ・「ここで、一緒に避難しましょう。東日本大震災では、連れて帰った子どもが亡くなっていますよ」と伝えてください。
- ・「どうしても…」と言われたら、保護者を確認の上、引き渡してください。

(4) 参加者の声

生徒の声

- ・自分のことだけではなく、周りの人のことも考えながら、小さい子や高齢者を助けながら落ち着いて行動することが大切だと思いました。
- ・避難訓練に真剣に取り組んでいないと、本当に地震が起きたとき、しっかりとした行動が取れないと思いました。 など

先生の声

- ・車いすは最低3人以上で、紐も細くなくシーツのようにつかみやすい物の方がよいと思います。
- ・避難場所に緊急用の車が必要であると考えます。 など

関係機関の声

- ・地域の皆さんや周りの方々の助けがなければ、子ども全員を安全な避難所まで誘導することはできなかったと思います。
- ・訓練実施の連絡がまだまだ行き届いておらず、戸惑う様子も見られたので、継続的な取組を願います。 など

4. 成果（○）と今後に向けて（●）

- 命を守るための方法を実感することにつながることができた。
- 訓練を実施することによって、避難をする際の細かい方法まで検討することができた。
- 様々なケースを想定した訓練の実施や、同様のケースの継続的な実施など、多様な方法での実施を検討していく。

※ 本事例は西中学校から情報提供いただき、掲載しました。

■ 実践例 2

避難訓練②～学校と地域が一体となって避難訓練に取り組んだ例～

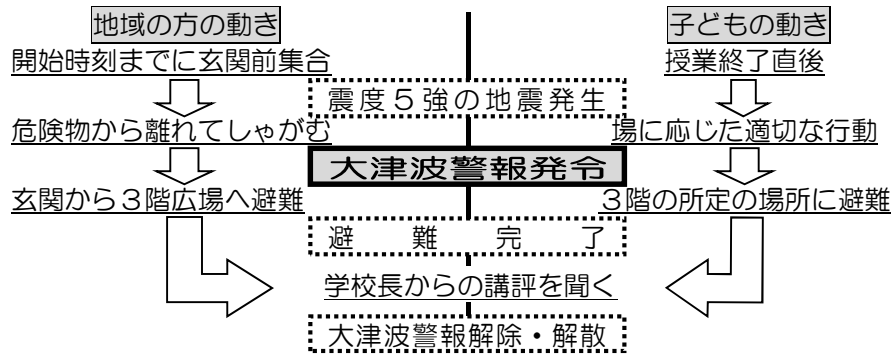
1 目的

地域の方々とともに避難することで、実際に想定した、より実践的な訓練にする。
地震および津波に対し、迅速かつ安全に避難する方法を身に付けさせる。

2 実施時期

6月 中休みの時間を活用。

3 活動の概要



3階本部前で学校長の講評に耳を傾ける、子どもと地域住民の様子。

4 成果（○）と今後に向けて（●）

- 子どもと地域住民が一体となって訓練を実施することで、より本番を想定した、実践的な訓練を行うことができた。また、地域ぐるみで災害に対する意識を高める貴重な機会にすることができた。
- 避難してきた住民への支援に関するマニュアルの作成や支援要員の要請・配置等については、行政機関等との連携を図りながら、検討を進める必要がある。

※ 本事例は八幡小学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 3

避難訓練③～学校と地域が一体となって避難経路を整備・新設した例～

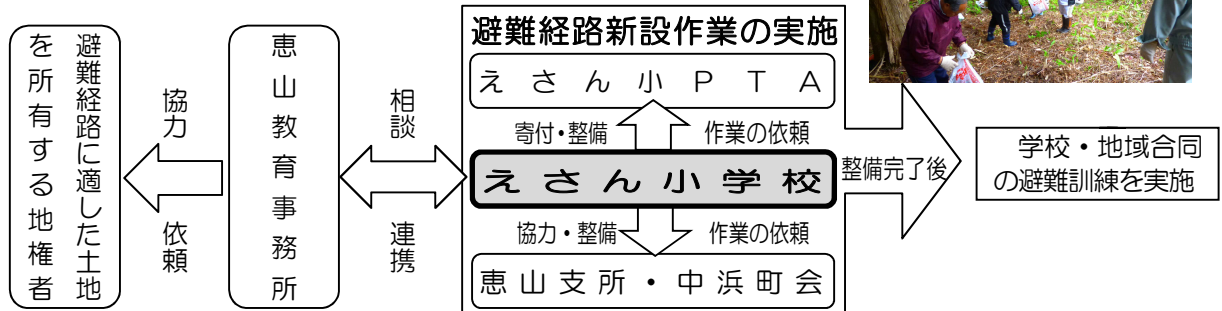
1 目的

緊急時に子どもと地域住民が迅速に避難できるよう、より安全な避難経路を確保する。
避難経路を保護者、地域住民の手で整備することにより、地域における防災意識を高める。

2 実施時期

6月

3 活動の概要



学校・地域合同の避難訓練を実施

4 成果（○）と今後に向けて（●）

- 避難に要する時間が以前に比べて半減するとともに、安全な経路を確保することができた。
- 雑草や冬期間の積雪への対処方法が未確定なので、今後は恵山支所とも相談しながら、避難経路の維持や管理体制の在り方について、早急に検討する必要がある。

※ 本事例はえさん小学校から情報提供いただき、掲載しました。

(2) 学校関係者の協力

■ 実践例 1

開かれた学校経営に向けて

1 目的

開かれた学校経営に向けて，学校評議員から意見，助言をいただく。

2 実施時期

平成23年度から年3回実施。(7月，12月，2月)

3 活動の概要

(1)設置要項の見直し

○ 平成23年度に，「学校評議員会設置要項」を見直し，開催回数や構成，内容などの一部改訂を行った。

(2)会議内容の見直し

○ 年3回の開催に当たり，会議内容の中に学校評価への協力を盛り込んだ。

1学期(7月)

- ・学校の教育活動に関する基本の考え方の説明。
- ・1学期の教育活動の状況の説明。
- ・説明や学校の課題に関する協議，助言。

2学期(12月)

- ・2学期の教育活動の状況の説明。
- ・2学期までの教育活動に関する評価についての協議。
- ・説明や学校の課題に関する協議，助言。

3学期(2月)

- ・1年間の教育活動の状況の説明。
- ・1年間の教育活動の評価の説明。
- ・次年度の教育活動に向けた協議，助言。

なお，学校評議員には，「学校教育目標」の実現度合いについて，大きな観点で学校評価を依頼した。

(3)情報提供内容の検討

○ 学校の実態や経営方針，学力向上の取組等については，可能な限り情報提供を行い，学校の課題や校長の思い等を包み隠さず伝え，指導・助言をいただいている。

〈情報提供例〉

- ・地域，保護者，児童の実態(身体面，生活面，学習面等)。
- ・学校経営の概要(学校教育目標，重点教育目標，学校経営の基本姿勢，基本方針等)。
- ・学力の状況，学力向上の取組。

(4)評議員からの意見に基づいて

○ 校長から「津波対応避難訓練」についての考えを伝えたところ，評議員から賛同を得られ，実現した。

第1回評議員会において，校長から評議員委員に相談

賛同

職員会議での協議

協力

中部高校への依頼

実現

中部高校との合同避難訓練の実施。
(平成24年6月実施)

(5)平成24年度函館市立学校学校評議員研修会における実践発表

① テーマ「学校評議員の意見を生かした学校経営」

② 内容

- ・年3回開催の学校評議員会の内容について。
- ・町会と中部高校と連携した避難訓練の取組について。
- ・学力を高める地域との連携の取組について。 など



4 成果(○)と今後に向けて(●)

○ 評議員からの意見や助言により，即座に具体的な学校経営の改善が図られることは少ないが，子どもや学校のことを応援している方たちからの言葉によって学校改善に向けた職員の意識高揚が図られている。

● 一部の教職員だけではなく，全員が「学校の最大の応援団である」評議員と顔を合わせて話し合う機会の設定を行っていく。

※ 本事例は千代ヶ岱小学校から情報提供いただき，掲載しました。

■ 実践例 2

学校・家庭・地域の連携協力～「学校を見ていただく」ための参観行事・学校関係者評価～

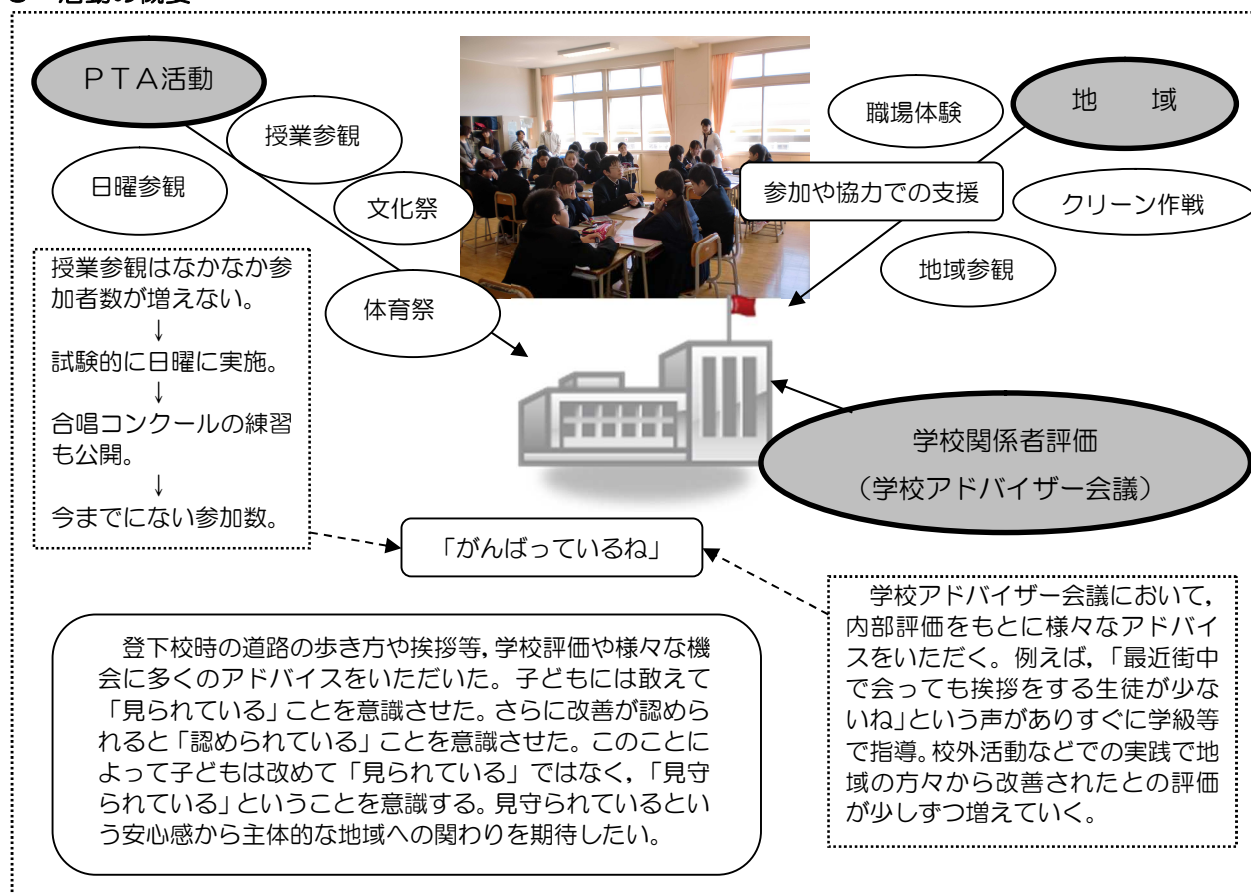
1 目的

自己評価や学校関係者による評価，多様な学校参観を実施し，保護者，地域住民から理解と参画を得て，学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

2 実施時期

○ 学校関係者評価…3学期 ○ 授業参観…4月，9月，2月 ○ 地域参観…11月

3 活動の概要



4 成果 (○) と今後に向けて (●)

- 様々な「参観」の機会に子どもの姿を見て，感想や気付いたこと等を交流していただくことで今の子どもの実態についての理解や，より現実的なアドバイスを得ることができる。
- 様々な「参観」の機会に地域，PTA，学校とのつながりを強め，学校中心のネットワークの基盤としていく。
- アドバイスに対しての学校の取組を迅速に検討し，実施していく。

※ 本事例は桐花中学校の実践例に基づき，掲載しました。

■ 実践例 3

地域教育会議の開催(校区小・中学校・PTA、各町会、民生委員、少年補導員)

1 目的

校区小中学生の学校内外での生活について、情報を交換し課題を共有することで、学校と家庭・地域が密接に結び付くことを目的とする。

2 実施時期

7月 放課後

3 活動の概要

- ・参加者自己紹介。
- ・各小中学校より子どもたちの現在の学校での様子について発表し合う。
- ・各地域から見た子どもたちの様子について発表する。
- ・保護者、地域の立場から意見や質問する。
- ・各学校行事について案内をするなど、いつでも来校できる環境づくりに努める。
- ・学校だよりを中心に学校から地域への情報発信を行う。

4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 小・中学校間連携において、日常から教頭間・生徒指導担当者間での連携が図られ、子どもたちの実態把握が進んでいる。また、引継ぎ等がスムーズに行われるようになっている。
- 保護者だけでなく地域の方々も行事に参加しやすくなり、来校し、子どもたちの活動の様子を把握しやすくなっている。
- 学校から地域へ、地域から学校へ、より具体的な協力体制を構築していく。

※ 本事例は的場中学校から情報提供をいただき、掲載しました。

■ 実践例 4

未来大学プロジェクト

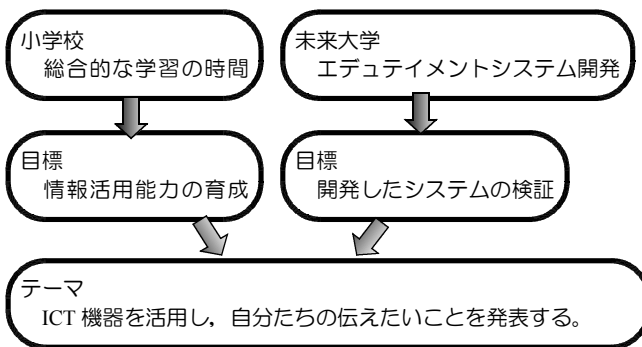
1 目的

はこだて未来大学との連携により地域素材の利用、地域の人々との交流を図り、体験的な活動や問題解決的な活動を重視し、情報活用能力や発表力、表現力を高める。

2 実施時期

例年 学芸会終了後の10月～12月の間

3 活動の概要



※地域のことを調べ、電子絵本や電子図鑑を作成する。

＜平成22年度＞

「赤川小学校の今と昔」をテーマとして調べ、電子絵本を作成した。

＜平成23年度＞

「地域図鑑」として、学校の周りの風景や自然をまとめ、電子図鑑を作成した。

＜平成24年度＞

「電子紙芝居」として、グループごとに伝えたいことをまとめ、ストーリー性のある作品を作成し、未来大学で発表した。



4 成果(○)と今後に向けて(●)

- 普段利用することのないICT機器に触れることができる。
- 未来大学の学生が数人来ることで、多くの手で授業を進めることができ、個別に対応ができる。
- 学校の総合的な学習の時間の目標と、未来大学のプロジェクトの目的とをさらに整合させていく。

※ 本実践は赤川小学校の実践例に基づき、掲載しました。

Ⅱ 実践編

4 学校から発信する ～地域、保護者との共通理解を目指して～

本章では、学校間や、学校が地域社会や家庭に発信，啓発している特色ある活動について掲載しております。

長期的な見通しをもった教育活動や，同世代，異世代の交流による様々な人とのかかわり，家庭間の連携，子どもを危機から守る活動など，学校から発信，啓発している活動をご参照願います。

各学校においては，これらを参考に，

- ・ 同校種，異校種の連携
- ・ 地域行事等への参加
- ・ 非行防止の推進

などの取組の充実をお願いいたします。

〈本章において資料提供していただいた園・学校〉

※ 掲載順

- ◇ 函館市立えさん小学校
- ◇ 函館市立恵山中学校
- ◇ 函館市立はこだて幼稚園
- ◇ 函館市立戸井幼稚園
- ◇ 函館市立旭岡中学校
- ◇ 函館市立青柳小学校
- ◇ 函館市立上湯川小学校
- ◇ 函館市立北日吉小学校
- ◇ 函館市立宇賀の浦中学校

(1) 校種間連携

■ 実践例 1

小学校、中学校の連携

1 目的

思考力、判断力、表現力を育成する指導方法の工夫（学習指導法、内容の工夫の取組）及び学力向上を支える指導の工夫（学習常規、家庭学習、読書指導、小中9年間の連続性のある指導の工夫の取組）を図る。

2 実施時期

7月～3月

3 活動の概要

〈学力・運動能力分析プロジェクト〉 子どもの学力の実態とその変化を数値化し、学びの実態を全教職員が把握するためのデータを提供する。（全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、小・中両校の優れた部分や課題を分析し、共通の課題を洗い出す。）
〈教育課程研究プロジェクト〉 小学校と中学校の年間指導計画一覧を教科ごとに作成し、教師が小・中9年間の指導計画を見渡せるような環境を提供する。（家庭学習指導、ノート指導、授業形態など、すでに小・中両校で行われていることを共有する。）
〈安全・生徒指導プロジェクト〉 学習常規、生徒指導及びボランティア活動等の企画の提案を行う。（生徒指導上の課題を協議し、学校内外のさまりについて検討する。小中一貫の防災教育を推進する。）

4 成果（○）と今後に向けて（●）

- 家庭学習、ノート指導、学習形態など、すでに各学校で行われていることを共有したことによってつながりをもたせた指導をすることができた。
- 発達の段階に応じたポイントをしぼった指導を行うことができた。
- ボランティア清掃や花壇作業など、縦割りグループを通して子どもたちがかわり、自己肯定感を高めることにつながることができた。
- 指導内容における9年間のつながりを図るためには、年間指導計画の様式や内容を検討していきたい。
- 子どもにとって分かりやすいスローガンや合い言葉など、シンプルな目標やゴールを設定していきたい。

※ 本事例はえさん小学校、恵山中学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 2

同園種の連携

1 目的

人とのかわりや活動を広げ、生活経験を豊かにする。

2 実施時期

〈年間交流計画〉

第1回 5月	第2回 6月	第3回 6月	第4回 6月	第5回 9月	第6回 9月
--------	--------	--------	--------	--------	--------

3 活動の概要

第1回	・戸井幼稚園年長来園。	・園周辺の施設（NHK前庭、千歳公園）に出かけ、一緒に遊ぶ。
第2回	・年長合同園外保育「タイヤ公園」。	・公園の遊具で遊ぶ。
第3回	・親子遠足「戸井・磯浜体験」。	※ 雨天のため中止。
第4回	・合同園外保育「函館公園」。	・学年ごとに動物園見学、水遊びをする。
第5回	・年少・年中合同園外保育「函館競馬場」。	・年少、年中同士で一緒に遊ぶ。
第6回	・戸井幼稚園年長・はこだて幼稚園親子遠足「函館山」。	※ 雨天のため中止。

年長児同士、お互いに刺激を受けながら交流を進めていた。母親同士の交流も見られた。

互いの名前がわかるように名札を作ったり、リレーなど一緒に取り組める活動を設定したりしたことにより、互いを意識する姿が見られた。

4 成果（○）と今後に向けて（●）

- 出合いをきっかけとして子ども同士で刺激を受け合い、思い切り体を動かしたり、様々な遊具に挑戦したりなど、一人一人の経験の豊かさにつながることができた。
- それぞれの園の子どもたちの体力面、生活面などの実態の違いが見られたことから、教師間で話し合い、子ども一人一人の育ちに相乗効果が生まれるような援助を工夫していく。
- さらに豊かな経験につながることができるよう、今後の交流の内容について検討していく。

※ 本事例ははこだて幼稚園、戸井幼稚園から情報提供いただき、掲載しました。

(2) 地域行事等への参加

■ 実践例 1

リコーダー部 訪問演奏

1 目的

日頃から本校の教育活動にご支援・ご理解をいただいている地域の方々と交流を図る。
訪問演奏活動を通して、様々な方と交流できる喜びを味わう。

2 実施時期

7月 旭岡港まつりでの演奏 9月 函館養護学校との合同演奏 12月 西旭岡児童館クリスマス会参加
8月 養護老人ホームまろにえ訪問演奏 10月 PTAバザーでの演奏
ケアハウスおおぞら訪問演奏 旭ヶ岡の家訪問演奏 ～年間7回の演奏～

3 活動の概要

「聴いてくれて
ありがとう!」。
「もっと感動す
る演奏を!」。
「もっと一緒に
楽しみたい!」。

生徒の声

◇聴いている人に
何を伝える?
◇どんな演奏をする?
自己表現するために…

◇空間を共有しましょう
◇感動し合えるひと時を
音楽を通して…

訪問演奏



◇自分たちで企画。
◇踊りや歌も交えて。
楽しんでもらうために…

◇一緒に歌いましょう
◇皆さんが中学生の
ころはどうでしたか?
交流を深めるために…

「楽しい時間を
ありがとう」。
「また来年も来
てほしい」。
「元気をもらっ
た」。

参観者の声

4 成果 (○) と今後に向けて (●)

- 地域の支えがあって演奏ができるという感謝の気持ちを大切にすることができた。
- より交流が充実したものになるよう自分たちで内容を工夫して取り組むことができた。
- 地域との交流を深めるために、一方的な交流にならないよう参加型の内容を充実させていく。

※ 本事例は旭岡中学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 2

異世代音楽交流会

1 目的

地域で活動している高齢者の方々と音楽を通して交流を深める。

2 実施時期

10月

3 活動の概要

- ・学年演奏 (3・4年)。
- ・高齢者大学 コーラス木曜会。
- ・小学校と高齢者大学との合同合唱。
- ・代表者からのおはなし。



4 成果 (○) と今後に向けて (●)

- 高齢者をいたわる心や地域の一員としての自覚が芽生えた。
- より充実した取組を検討していく。

※ 本事例は青柳小学校から情報提供いただき、掲載しました。

■ 実践例 3

子育て支援～はこ幼稚園サークル‘にこにこ’～

1 目的

地域の幼児教育センターとしての役割を担う。

2 実施時期

毎週 月・木曜日 9時30分～13時30分

3 活動の概要

「安全・安心な遊び場が少ない」。
「同年齢の子を遊ばせたい」。
「幼稚園の雰囲気を知りたい」。

⇒ サークル誕生



- ・就園児とも一緒に遊ぶ。
- ・親子で楽しめる遊びの指導。
- ・園からの情報発信や子育て相談。
- ・絵本読み語りグループ“マシュマロ”の読み聞かせ。

4 成果 (○) と今後に向けて (●)

- 子ども、親にとって成長できる場となった。
- 子どもの実態を踏まえ計画を見直していく。

※ 本事例ははこだて幼稚園から情報提供いただき、掲載しました。

(3) 生徒指導等の教室の実施

■ 実践例 1

地域人材を活用 ～看護師による 喫煙防止・薬物乱用教室～ “たばこの害と薬物”

1. 目的
たばこ、薬物乱用の害を知り、すすめられた時には毅然とした態度で断る必要性について理解する。
2. 実施時期及び対象
11月 対象：第6学年
3. 活動の概要
講師 石田英滋氏（函館・性と薬物を考える会会員、看護師、前年度PTA会長）
《内容》
○ たばこの害について
・死因の上位4位までに影響を及ぼすものがたばこ。
・受動喫煙のおそろしさ。
・胎児にも影響。
・老化を早める（基礎代謝の低下、コラーゲンの減少等）。
・ニコチンはコカインよりも常習性（依存性）が高い。
○ ゲートウェイドラッグ
・たばこ→飲酒→シンナー→脱法ハーブ、大麻→覚醒剤の使用につながっていく。
○ 授業を受けて・・・
「絶対に吸わない」と決意する姿、親にもお願いしていくという声が多数であった。
・僕は絶対にたばこを吸わないと約束します。
・「受動喫煙」も怖いと思いました。
・薬物はシンナーしか知らなかったけど、大麻や覚醒剤、MDMAなど知ることができました。
・ぼくのお母さんはたばこを吸っていて心配なので、やめさせていきたいです。
○ 断る勇気が大事！
“それでもあなたはたばこを吸いますか？”
○ 成果（○）と今後に向けて（●）
○ たばこの害や薬物の恐ろしさについて理解し、絶対に手を出さないと決意する姿が見られた。
● 子どもの一番身近で吸っているのが保護者。保護者にも呼びかけ、参加していただく体制をとっていく。
● より一歩進めて、今後誘惑された場合等のロールプレイングの実施も視野に入れて検討していく。

※ 本事例は上湯川小学校の実践例に基づき、掲載しました。

■ 実践例 2

～警察署との連携による 薬物乱用防止教室～

1. 目的
心身への影響や依存性等を理解し、適切な行動選択や意志決定ができる資質を育成する。
2. 実施時期
12月
3. 活動の概要
《健全育成を願うライオンズクラブと中央警察署が連携し、保護者や地域にも参観を呼びかけた薬物乱用防止教室》
講師：函館中央警察署の職員
対象：6年生
○ 覚醒剤の使用者数をはじめ、年齢層を問わず薬物乱用者の数が北海道の中でも比較的多いと言われる道南や函館の実態を捉え、児童に現実を直視させる。
○ 今後、中高生となっていく自分が、薬物の拒絶や根絶にどう向き合っていくかということを、真剣に考えさせる。
4. 成果（○）と今後に向けて（●）
○ 飲酒・喫煙による害をはじめ、薬物のもつ有害性や危険性を十分理解できた。
● 事前の広報活動や啓発活動を、一層強化し、より多くの保護者や地域住民の参観に結び付けていく。

※ 本事例は北日吉小学校から情報提供いただき、掲載しました。

■ 実践例 3

～地域の保護司による 薬物乱用防止教室～

1. 目的
非行問題を身近な問題として捉え、非行防止教育の啓発を図る。
2. 実施時期
12月
3. 活動の概要
《地域の保護司主催による薬物乱用防止教室》
講師 伊藤淳子氏（保護観察官）
・非行の誘いを断ること（薬物等も）。
・日常生活で危険を予測し、回避すること。
・非行が少年自身や周囲に及ぼす影響。
・犯罪にあたる行為、罪をおかした場合の刑罰、処罰について。
・不良行為から初発型非行、そして悪質、深刻化していく経過等。
※ 講話の後、学級毎に指導を行い、深化を図った。
4. 成果（○）と今後に向けて（●）
○ 飲酒、喫煙、深夜徘徊などの不良行為が、初発型非行となり、悪質、深刻化していく経過を知り、非行を回避し、断る勇気をもつことへの理解を深めることができた。
● 危険を予測し、回避することや、非行の誘いを断ることなどを理解させ、より高い実践力につなげていく。

※ 本事例は宇賀の浦中学校から情報提供いただき、掲載しました。

◇ 参考・引用文献一覧 ◇

- | | |
|---------------------|---------|
| ・「文部科学白書 2012」 | 文部科学省 |
| ・「小学校学習指導要領解説総則編」 | 文部科学省 |
| ・「中学校学習指導要領解説総則編」 | 文部科学省 |
| ・「初等教育資料（2012年3月号）」 | 東洋館出版社 |
| ・「初等教育資料（2012年5月号）」 | 東洋館出版社 |
| ・「中等教育資料（2012年1月号）」 | ぎょうせい |
| ・「教職研修（2009年6月号）」 | 教育開発研究所 |

【平成24年度函館市学校教育指導資料作成委員】

（敬称略）

委 員 長	函館市立はこだて幼稚園	園 長	前 原 聡 子
副委員長	函館市立高丘小学校	教 頭	紺 野 克 典
委 員	函館市立高盛小学校	教 諭	栗 田 淳 子
委 員	函館市立八幡小学校	教 諭	酒 井 光 史
委 員	函館市立上湯川小学校	教 諭	本 間 亜 希
委 員	函館市立桔梗小学校	教 諭	山 下 亮 晴
委 員	函館市立赤川小学校	教 諭	兒 玉 光 哉
委 員	函館市立榎法華小学校	教 諭	飛 鳥 拓 篤
委 員	函館市立港中学校	教 諭	岡 川 基 子
委 員	函館市立旭岡中学校	教 諭	近 藤 基 勉
委 員	函館市立赤川中学校	教 諭	籠 嶋 史 世
委 員	函館市立桔梗中学校	教 諭	平 石 暁 資
委 員	函館市立桐花中学校	教 諭	植 田 元 貴
委 員	函館市立榎法華中学校	教 諭	小 林 元 貴

【表紙作品】

函館市立鱒川中学校

教 頭 仲 井 靖 典

平成24年度函館市学校教育指導資料 「子どもを中心につなぎ合うために」 ～見守る、支える、共に歩む、発信する～

発行日 平成25年3月31日
 発 行 函館市教育委員会
 所在地 040-8666
 函館市東雲町4番13号
 電 話 0138（21）3557
 F A X 0138（26）7901
 E-mail shidou@city.hakodate.hokkaido.jp
 Web ページアドレス
http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/shidou/shidou.htm